第６章　文化的景観に関する事項

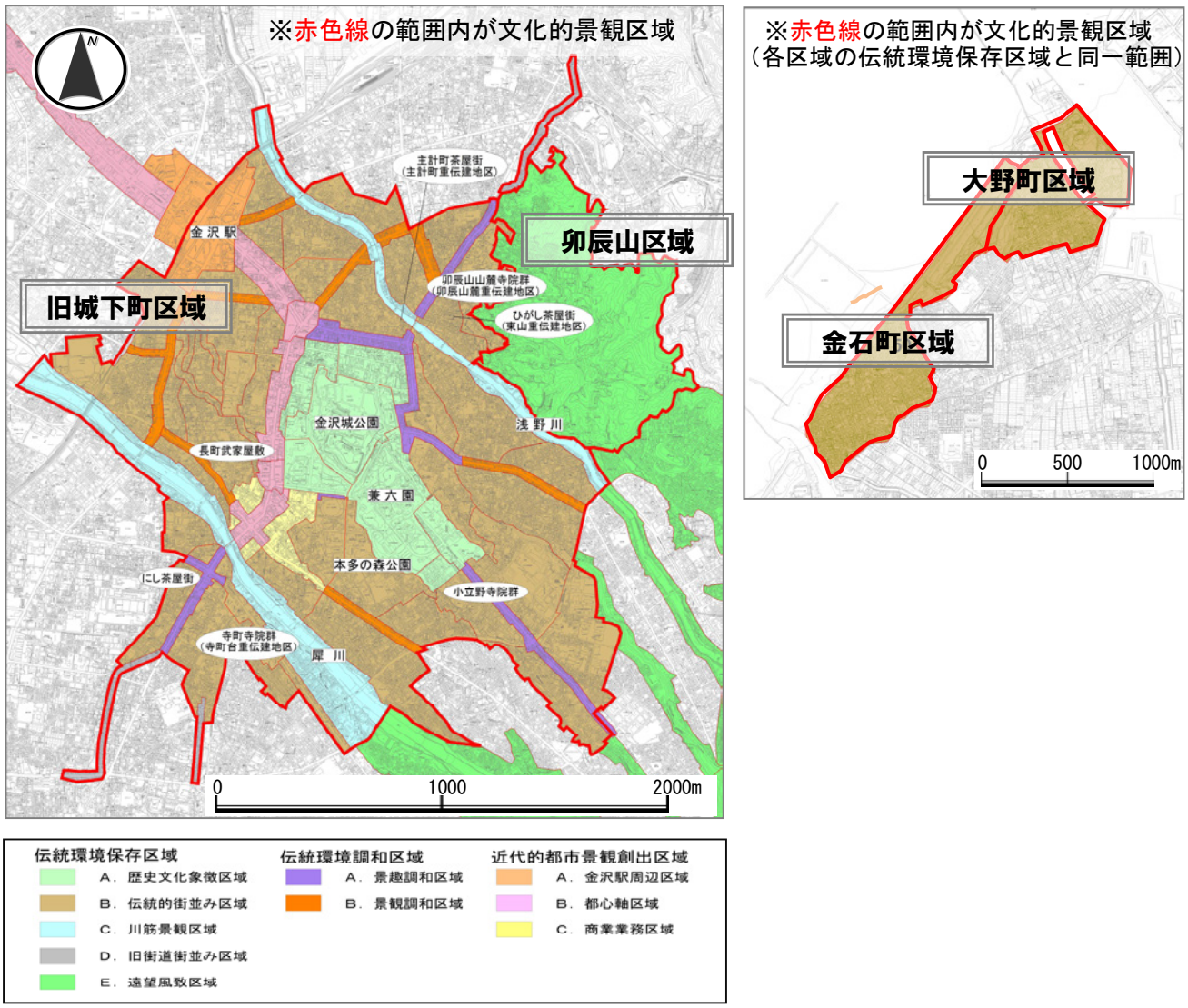
６－１　文化的景観区域

本市には、金沢城跡や兼六園等の歴史上価値の高い歴史遺産をはじめ、その周辺には茶屋街や寺院群等の伝統的な街並みが残されています。そこでは、歴史と伝統を反映した人々の生活が営まれ、金沢固有の風情、情緒、佇まいを醸し出しています。

これらのことを踏まえ、本市では、このような景観地を文化財保護法に定める「文化的景観」として位置づけ、保存・活用することにより、個性豊かな地域社会の実現と歴史都市金沢にふさわしい景観として保全・継承します。

本市における文化的景観区域は、下図に示すように、景観形成区域と整合を図った「旧城下町区域」、「卯辰山区域」、「金石町区域」及び「大野町区域」とし、景観形成基準に基づく規制・誘導により、歴史都市にふさわしい魅力的な景観形成を進めていきます。

【金沢市の文化的景観】



６－２ 文化的景観の現状

（１）「旧城下町区域」及び「卯辰山区域」

１）良好に残されてきた都市構造と伝統文化

金沢は、最大大名である加賀藩の政治、経済、文化の中枢機能を果たした城下町であり、安土桃山期から江戸期にかけて一時代を画した近世城下町であるといえます。そして、金沢は400年以上も戦禍に遭わなかった平和都市であり、同時に自然災害の大きな被害を受けなかったことから、現在も当時の都市構造（坂路、広見を取り込む城下町独特の街路網、惣構跡・用水網など）と歴史遺産（武士住宅、武家庭園、寺社建築、町家及び近代建築並びに土塀が連なる武家屋敷群、寺院群、茶屋街などの伝統的な街並み）が良好に残っています。また、それらの基盤を成す起伏に富んだ地形や台地の縁、市街地の背景を成す丘陵地域の豊かな自然が、都市空間に変化と潤いを与えています。

さらに、それらの中で一体となって近世以来の伝統を伝える多様な文化や工芸技術が、現在も市民生活に息づいています。伝統技術については、加賀藩の細工所の伝統を受け継ぐ「加賀象嵌」、「金沢漆器」、「金沢仏壇」のほか、「加賀友禅」、「金沢箔」、「大樋焼」など伝統を伝える工芸が数多くあります。藩政期の武家文化に始まった伝統技術は、時代とともに庶民の生活文化にも深く関わるようになり、身近なものとして定着してきました。また、武士の嗜みであった能楽や茶の湯などの伝統文化が現在も継承されています。具体的には、老舗の店主が客人をもてなすために謡を嗜み、一般民家においては茶室を有する家屋がみられ、市内各所で茶会も多数開催されるなど広く市民生活に浸透しています。

このように、城下町金沢の文化的景観は、中世末期の寺内町形成にはじまり藩政期にその基本構造が整えられたのち、近代以降も新しい要素や流行を獲得しながら複雑に変容してきた結果、現在の都市景観の中に歴史的重層性を色濃くとどめるとともに、都市に暮らす人々の精神的･文化的特色を強くあらわしています。

２）文化的景観の一体性（形態上・機能上の有機的関連から見る全体としての価値）

金沢において、いかに固有の文化が育まれ、場所性が保持されてきたか、その要因については決して単純なものではありませんが、あえて端的に整理して説明するならば、①伝統的な生活様式に見られる精神的・文化的風土、②多様な文化活動における空間的利用、③金沢らしい美意識の表出と醸成、④職人や関連業種の集まる町場（まちば）の存続、の４点に集約できます。

① 日常生活に浸透する嗜みの文化

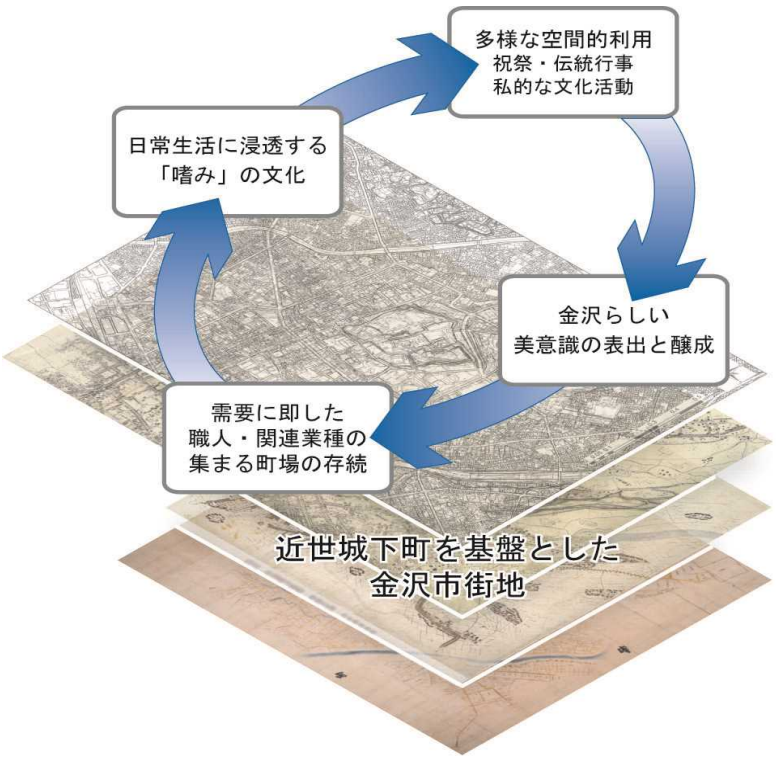
伝統的作法・教養を身につける「嗜みの文化」は、藩政期に由来し、能楽や茶道の奨励は武士階級から次第に町人層へと広がり、書画･骨董品の価値を尊ぶ風潮も見られるようになりました。いずれも百万石の大城下町ならではの財力を背景にしたもので、明治期以降は武士階級に代わって財をなした商人層がその文化を引き継ぎました。

また、金沢の人たちには、冠婚葬祭や人生儀礼など特別な日の贈答慣行だけではなく、日常的にも贈答慣行が顕著にみられます。こうした慣習自体が金沢の精神的風土であり、何事も丁寧にふるまおうとする武家文化の名残として、今もうかがい知ることができます。

② 文化活動における多様な空間的利用
茶室や庭園では日常的にも茶会が行われ、能楽鑑賞もたびたび行われています。 また、金沢城や兼六園のほか、犀川・浅野川・卯辰山などの野外空間においては、伝統芸能や桜の花見などが行われています。晴れやかな舞台として都市空間が多彩に利用されて賑わいを見せ、多くの市民が親しんでいます。
③ 金沢らしい美意識の表出と醸成
加賀藩は城内や周辺に御細工所を設けて、前田家のみならず上級武士や寺社が用いる様々な道具類を自前で製作できる水準まで高めました。また、加賀友禅、加賀宝生、加賀万歳など、地域性をもった伝統文化の数々は、全国的にみても貴重なものとなっています。金沢というブランド力は、工芸技術や美意識の確かさ、製品へのこだわりや誇りをあらわし、城下町という空間的イメージと一体となって、高級消費財としてのイメージが定着しています。金沢に暮らす人々は、日常的に美しいものを目にし、手に触れる機会を得て、その審美眼を向上させています。
④ 職人達や関連業種の集まる町場の存続
金沢においては、関連する諸道具を作り、販売する商店なども含めた「金沢ブランド」ともいえる独自の文化産業が成立しています。能楽、謡曲、茶道、華道、香道など、さまざまな「嗜みの文化」と関連した諸職業が市中の至るところにみられ、日常的に需要を満たしてきました。伝統工芸作家は市内の中心部に集まり、また古美術商や骨董品、紙商、和菓子店、呉服商など、数そのものは減ってはいるものの、町場のポテンシャルは維持されています。近年は、伝統文化や美術工芸品を鑑賞できる施設が市街地中心部に集まり、充実しています。

金沢においては、都市に暮らす人々の伝統的な作法や教養に基づく諸活動によって、茶室や庭園、能舞台などの私的な遊興施設や、多くの人が集まる河川敷や卯辰山、街路空間や寺社境内など、城下町の様々な空間を四季折々に演出し、利用してきました。さらに、文化的素養に基づく日常的な需要は、市街地の各所に職人たちや関連業種の集まる町場の風情を漂わせ、金沢独自の確かな美意識を醸成させるとともに、繊細な伝統工芸技術や豊かな食文化などに裏付けされた、高い付加価値「金沢ブランド」と呼びうる文化産業に結実しています。つまり、城下町を基盤とする金沢市街地には、成熟した都市文化が発達し、相互に有機的な関係を保つことで一体性を有し、市民の暮らしに深く浸透しています。

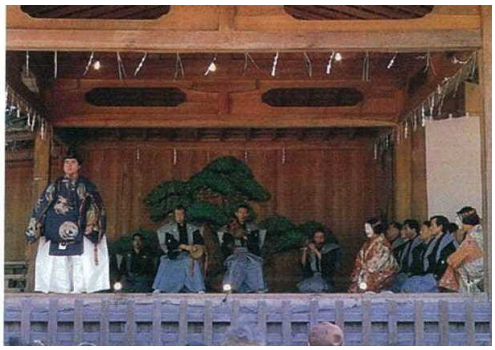
【「城下町金沢の文化的景観」の体系（概念図）】



（２）「金石町区域」

金石町区域は、加賀藩草創期から木材など物資の移出入を担う城下町金沢の流通の要地として重要な役割を担い、発展したまちです。近代以降、海上交通から陸上交通への物流体系の変化の影響を受けながらも、現在も、藩政期に由来する街路やまち割りが継承されるとともに、町家などの歴史的建造物が数多く分布し、こまちなみ保存区域に代表される歴史的な風情を残しています。また、古代の宮腰湊に起因し、市指定無形民俗文化財に指定されている大野湊神社の祭礼行事は、現在も盛大に執り行われるとともに、前田家との深い関わりがある寺中神事能も毎年開催されるなど、地域の伝統文化が色濃く継承されています。このように、金石町区域には地域の歴史や文化を映した貴重で、価値の高い景観が数多く残されています。

金石町こまちなみ保存区域


大野湊神社の寺中神事能

（３）「大野町区域」

大野町区域は、藩政期に大野川から河北潟経由の水運を背景に発達したまちです。大野町区域の特質としては、加賀藩の政策として奨励された醤油製造業が、時代の変化に応じてその業態を適応させながら現在も受け継がれていることがあげられます。醤油製造業は、地下水に恵まれた立地性と、本区域の主要な生業であった廻運業の副次的な生業として始まりましたが、廻運業が衰退した後も醤油の生産は続けられ、現在は日本の５大醤油産地のひとつとして知られており、醤油製造工場や倉庫が特徴的な景観を創出しています。また、区域内の街路や町割は、藩政期に由来した基本的な構造を残しつつ、現代に継承されています。さらに、大野日吉神社の祭礼行事や市指定無形民俗文化財に指定されている山王悪魔払いなどの伝統行事が継承されています。このように大野町区域には、地域の歴史や文化を映した貴重で、価値の高い景観が数多く残されています。

大野町こまちなみ保存区域

まちなみに溶け込む醤油蔵

６－３　文化的景観を保護する意義

文化的景観を保護する意義とは、藩政期に由来する地域固有の文化が映し出された景観とその場所性に依拠した関係施設を後世に継承するとともに、市民生活の中に今もなお息づいている伝統文化や伝統技術、伝統的な生活様式など、日本文化としての高い文化の質を維持発展させることが、本市に課せられた「歴史に責任を持つまち」としての責務をまちづくりの場面において実現する道筋に繋がるということにあります。そして、その努力を続けることは、城下町に由来する金沢の個性や魅力をさらに磨き高めることに繋がります。

また、文化的景観を保護していくためには、地域住民による文化的景観の価値の理解とそれを維持する協力が不可欠です。地域固有の文化によって映し出された景観が、自分たちのかけがえのない財産であるという意識が高まれば地域の個性を大切にするようになり、自分たちの考えでその地域にふさわしいまちづくりを進めていくことに繋がります。

そのため、金沢の文化的景観の特性を活かし、様々な商業や観光等とも結びつけることにより、持続的に発展すべき「風格と魅力を兼ね備えた世界都市・金沢」の実現を目指します。

今後の展開に応じて、市内のその他の区域においても、引き続き文化的景観の調査を進めていきます。